

都市再生整備計画(第7回変更)

羽後境駅周辺地区

秋田県 大仙市(旧協和町)

平成22年3月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	秋田県	市町村名	だいせんし 大仙市(旧協和町)	地区名	うごさかいえきしほうへん ぐ 羽後境駅周辺地区	面積	128 ha	
計画期間	平成	17	年度	～	平成	21	年度	
					交付期間	平成	17	年度
						～	平成	21
							年度	

目標

大目標:地域交流拠点の形成による賑わいの創出と地理的特性を活かした住環境の形成による若者定住化の促進

- 目標① 羽後境駅周辺の交通機能の充実と、自然環境を活用したやすらぎのある空間の創出により、地域住民の交流を促進する。
- 目標② 地域の利便性を考慮した若者定住環境の整備によりにぎわいを再生する。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・協和地域(旧協和町)は大仙市の西北端に位置し、県庁所在地である秋田市に隣接している。地域の総面積は247.74km²で平成16年4月現在人口8,894人、2,657世帯を数え、卸・小売業やサービス業など第3次産業が57.8%を占めている。また、冬期間は日本海からの季節風により、多くの降雪をもたらす典型的な豪雪地帯でもある。交通網については、南西部に東北縦断秋田自動車道協和IC、さらに一般国道13号・46号・341号などが整備され、秋田・岩手連携軸の交通・交流の大動脈となっている。
- ・当地域の人口は昭和30年をピークに以後減少傾向にあるが、近年は核家族化により世帯数は増加傾向を示している。他町村と同様に少子高齢化の進展が深刻で、平成16年7月には高齢化率31.4%と県平均26.1%を大きく上回り、地域活力の低下が懸念されている。
- ・当地域の約84%が山林、9%が耕作地であることから、農林業も基幹産業の一つになっている。しかし、近年農林業を取り巻く情勢も大幅に変化しており他の産業との多角経営が求められている。特産物としては、「まほろばメロン」や「いぶりがっこ」などの農産加工物、林産物や地酒、山菜等がある。これまでこうした特産物の情報発信や販売が十分でなかったが、平成17年3月に道の駅「協和」(愛称:四季の森)のオープンに伴い、特産物のPRにも努めることとしている。
- ・当地域は秋田市の通勤圏で、かつ地価が安価であることから、宅地供給等により市外からの転入者が増加傾向を示している。また、現在市営住宅が69戸供給され、常時満室という状況である。
- ・地区内には、全国的にも有名な唐松神社や県内で唯一の能楽殿(まほろば唐松)があり、能楽殿では定期的な公演ばかりでなく様々な文化的催し物が行なわれている。また、土木工学で多大な功績を残した工学博士物部長穂氏を顕彰する「物部記念館」が隣接地に設置されており、観光・学習施設として広く利用されている。
- ・当地域の中心地である羽後境駅周辺をみると、西口周辺1km以内には支所、市民センター、運動場、郵便局、銀行等の公共施設が集積しているが、東口周辺には公共的な施設がなく、未利用地(市有地)を活用した公園や集会所、児童館など地域住民が憩いの場として交流できる空間や施設の整備が強く要望されている。また、当地区はJR奥羽本線により南北方向約2.5kmに渡り東西に分断されており、区間内に3箇所のJR交差箇所があるが、いずれも幅員狭小で、東西住民往来の支障となっているうえ、地区内道路は歩道整備区間がなく、安全性に問題がある。
- ・市民センター周辺には野球場、テニスコートなどの屋外競技施設が整備されているが、年間を通じて市民がスポーツを通じた健康づくり、体力づくりを図る生涯学習への参加の場としての屋内施設の整備が強く望まれている。
- ・住民のまちづくりへの参加状況を見ると、38団体が芸術文化協会に加盟し独自の活動を展開している。公民館では各種の文化講座を開催するとともに、関係サークルの育成に努め、その成果を『きょうわ祭』で発表をしている。
- ・旧協和町では、平成8年に協和町新総合発展計画、平成7年、12年には協和町過疎地域自立促進計画、平成10年には協和町山村等活性化ビジョンを策定し、町の問題課題把握、課題解決策の検討に努めてきた。
- ・平成15年9月には庁内で「まちづくり推進会議」を発足させ、市町村合併に対応して、新市のまちづくり事業へ分野ごとに提案していくことを目的として月1回のペースで開催してきた。
- ・これまで広報誌の充実、地区単位の移動町民室、町長面会日、提言ボックスの設置など町民意見の反映に努めた。これらを踏まえ、まちづくり交付金事業導入の検討を行うために、役場全課参加による検討委員会を平成16年2月に立上げ、3回の検討会や過疎地域自立促進の事業調整会議を行った。また、地域住民から広く意見を集約するため、地元境地区の各組織代表者で構成する連絡協議会と一緒に懇談会を重ね、地域再生プランの協議を行った。4月からは事業導入を推進することを目的として『まちづくり交付金事業調査書』の策定を行った。

課題

- ・駅周辺地区の幅員狭小な道路網の整備と、高齢化が進む中で的人口定住化促進のため住環境を整備し、地区生活の安全性快適性を確保することが喫緊の課題である。
- ・地域の中心地である駅周辺地区は鉄道により東西に分断され、横断箇所も狭小で地域交流に支障を来している。両地区を連絡する道路の幅員及び歩行者空間の確保、国道13号へのアクセス性向上といった安全で利便性の高い道路を整備し、地域間の往来を容易にする必要がある。
- ・苅谷沢地区には豊かな自然環境を備えた空間があるが、その役割は十分に活かされていない。やすらぎのある公園と世代間交流を促進させるため、身近に集うことの出来る施設及び防災対策が両立したまちづくりの推進が必要である。
- ・少子高齢化の進行による地域活性の低下を防ぐ目的として、若年層や子育て世代の定住化を促進させるため不足している公営住宅の供給と、住みよい住環境の形成が必要である。
- ・年間を通じて、子どもからお年寄りまで、健康づくり、体力づくりができるなど、多様なスポーツニーズに対応した施設を充実することで、地域間交流の相乗効果を図ることが望まれる。

将来ビジョン(中長期)

- 旧協和町で策定した協和町新総合発展計画では、人口の定住促進による活性化はもとより、農林商工業を中心とする地域産業の振興、安全で快適な環境基盤の整備、健康で高齢化社会に対応すべき保健、福祉の充実推進、心豊かな教育文化の振興など、なお一層の住民生活の向上と町の活力向上のため、全町民が一致協力して新たな計画に向け邁進するものとしている。
- また協和町過疎地域自立促進計画では、当町の恵まれた自然と地理的利点を生かし、人口の定住促進をはじめ、農林業を中心とする地域産業の振興、安全で快適な環境整備、少子・高齢化に対応する保健・福祉の充実、心豊かな教育文化の振興などを推進するとされている。

目標を定量化する指標

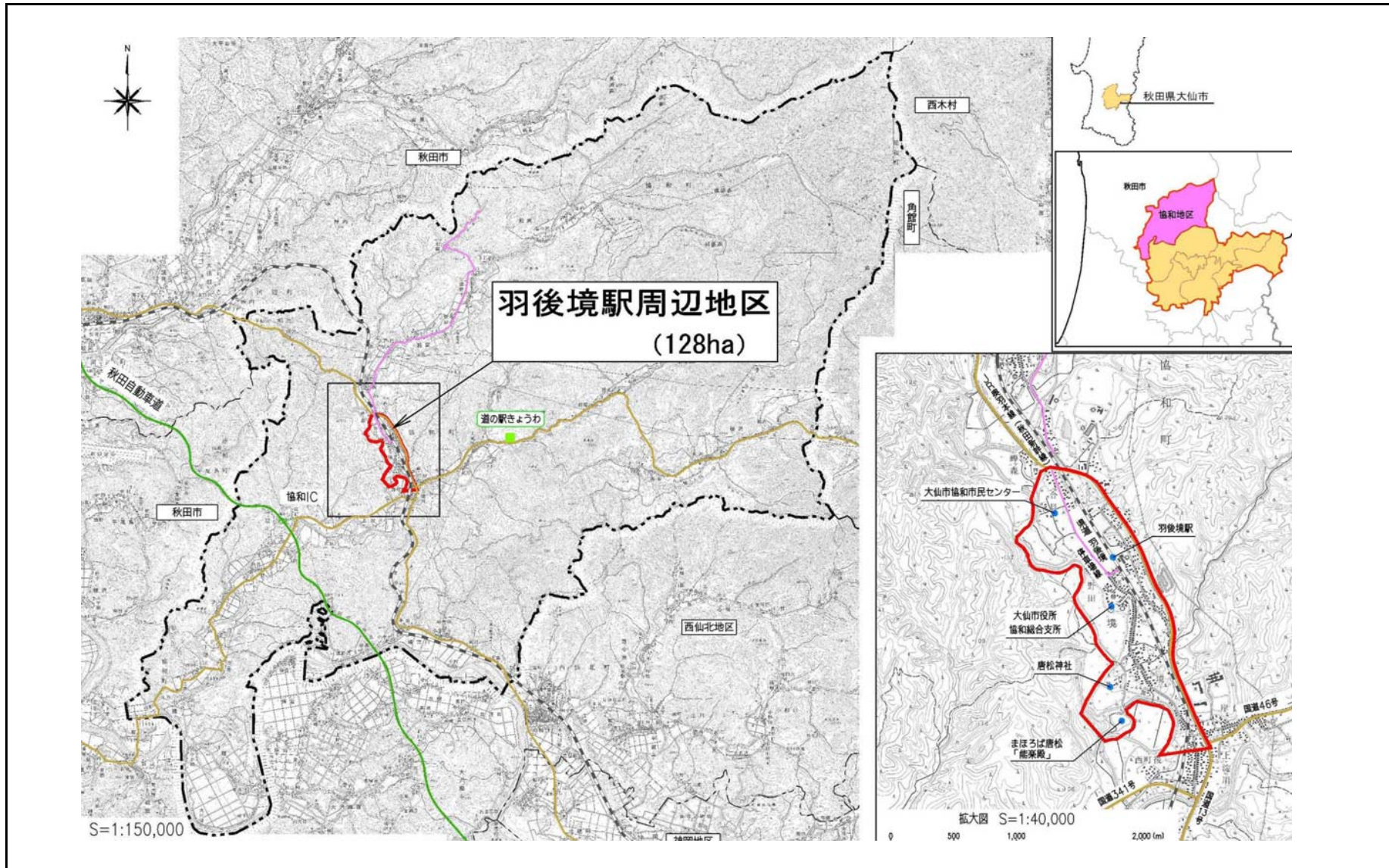
指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
①-1公園・地域交流センター利用者満足度	%	公園・地域交流センター利用者のアンケート調査による満足度	世代間交流が図られているか、また、それが定住化促進に有効であるかどうか	10	H16	50%	H21
①-2地域間交流人口	人/年	年間施設利用、イベント参加者の増加(市民センター、サンスポーツランド、市民体育館、まほろば唐松、唐松神社、物部長穂記念館)	情報発信・回遊性の確保、住民団体との連携により、地域間交流の活性化が図られているか	99,793	H15	124,000	H21
②-1地区内居住人口	人	地区内居住人口(住民基本台帳)の増加	良好な居住環境提供による地区内人口の増加	1,650	H16	1,680	H21
②-2地区内若年者比率	%	地区内若年者層人口(住民基本台帳)の増加	地区内若年者比率(住民基本台帳若年層15才～29才)の増加	15	H16	17	H21

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 <地域間交流の促進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR奥羽本線により分断されている東西の地域間道路や、駅東地区の骨格になる地域内道路を、通行者が安全かつ容易に往来が出来るよう整備する。 ・西地区の既存道路に、利便性を向上するため流雪溝を整備する。 ・苺谷沢中央公園は、既存の桜と植栽による緑豊かな空間、地形を利用した水辺広場、ベンチや四阿の設置などによる交流と憩いの場を創出する。なお、苺谷沢中央公園に着いては、災害時の一次避難地として位置づける。 ・駅東の玄関口を、東地区住民はもとより多くの駅利用者の利便性の向上を図るため、交通広場として整備する。 ・地域内にある庁舎や市民センターなどの公共施設や、全国的に有名な唐松神社や県内唯一の能楽殿「まほろば唐松」、物部長穂記念館などの文化資源へ、容易に誘導するため地域案内板を整備する。 ・公園と付帯して高齢者生活支援機能を持たせた施設と、子供を持つ親を対象に行ったアンケート調査により要望が多かった子供が安心して過ごせる空間を併設させ、地域交流センターとして整備し、世代間交流の場として活用する。 ・市民センターと隣接して新体育館を整備し、積雪地帯である当地域において年間を通じた憩いの場、健康づくりの場として、また本格的な屋内競技が開催できる場を提供することで、地域交流の促進、定住化促進を図る。 ・唐松太鼓保存会等の地域住民による芸術文化活動が行われていることから、こうした活動を支援することで地域の活性化や世代間交流の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①道路(基幹事業/苺谷沢線:市) ②道路(基幹事業/駅東線:市) ③公園(基幹事業/苺谷沢中央公園:市) ④地域生活基盤施設(基幹事業/東口交通広場:市) ⑤地域生活基盤事業(基幹事業/地域案内板:市) ⑥高次都市施設(基幹事業/地域交流センター:市) ⑦地域創造支援(提案事業/大仙市新協和体育館建設事業:市) ⑧住民活動支援(提案事業/ミニふるさと創生事業:地域団体、市)
<p>整備方針2 <若者定住化の促進></p> <ul style="list-style-type: none"> ・羽後境駅東口付近にある未利用地(市有地)を活用するため、老朽化した建造物を除去して公営住宅の整備を行い、地域内外の若者世代へ提供することで、定住化を促進させ地域の活性化を図る。 ・周辺に公園や地域交流センターをあわせて整備することで、若者世代も住み良い住環境を提供し、定住化の促進を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ①公営住宅整備(基幹事業/公営住宅整備:市) ①-2地域創造支援(提案事業/老朽化した建築物の除去:市) ②公園(基幹事業/苺谷沢中央公園:市) ③高次都市施設(基幹事業/地域交流センター:市) ④地域創造支援(提案事業/大仙市新体育館建設事業:市)
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ○事業終了後の継続的なまちづくり活動 当地区では、芸術文化活動を行っている団体が約38団体あり、定期的な発表会等を行っている。地域交流・地域活性を図るために、こうした団体の活動への支援を継続的に行っていく。 ○交付期間中の計画の管理について 交付期間中において各種の事業を円滑に進め、目標に向けて確実な効果をあげるために、まちづくり推進協議会を今後も継続的に開催し、毎年、事業成果について評価や事業の進め方の改善等を行うためのモニタリングを実施する。その結果については、随時、市民に情報公開する。 	

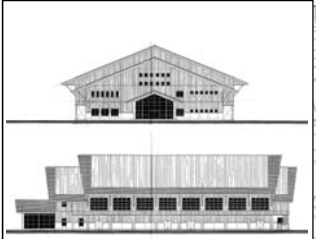
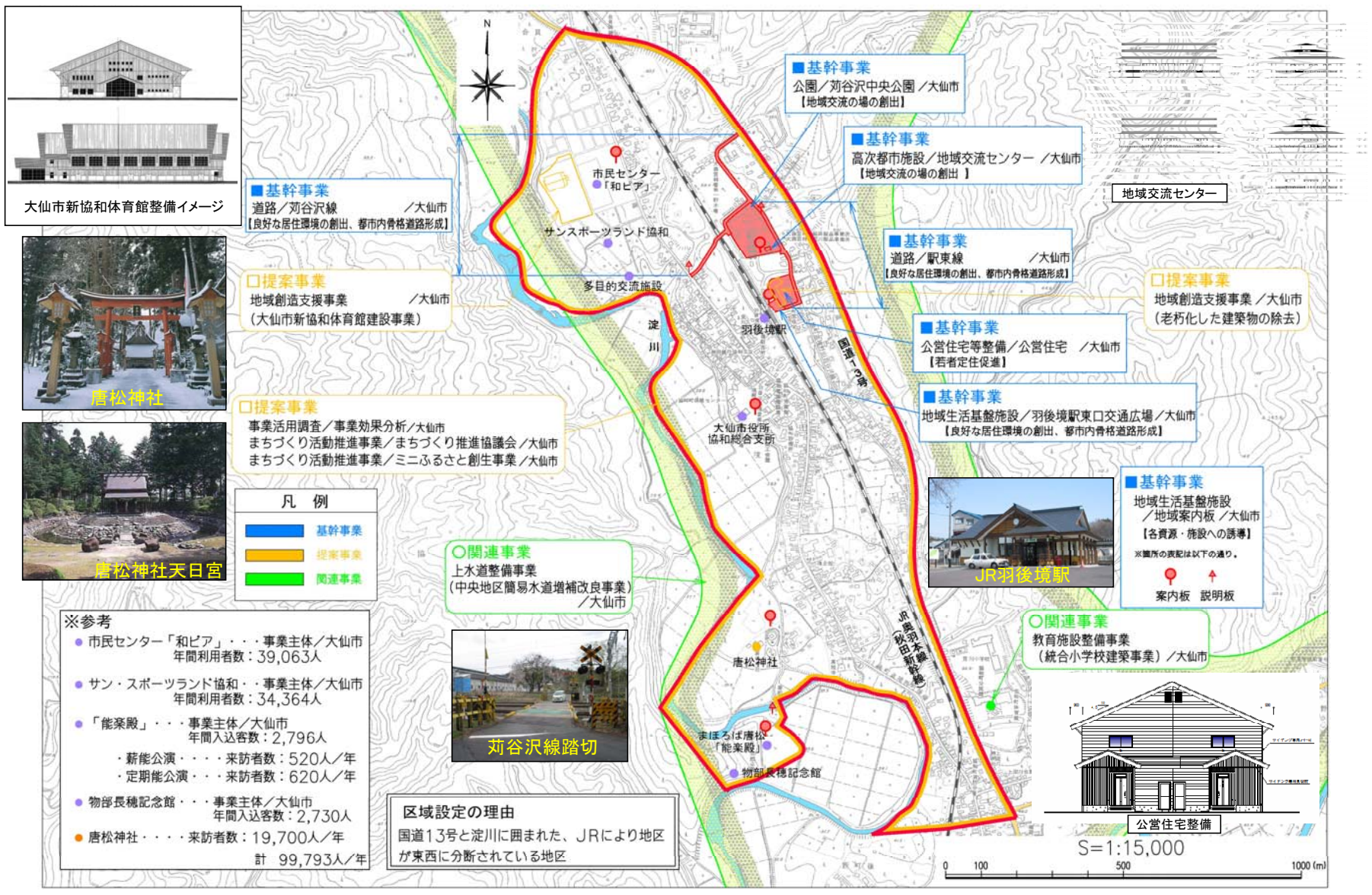
都市再生整備計画の区域

羽後境駅周辺地区(秋田県大仙市)	面積 128 ha	区域 協和字境、大袋、苅谷沢、野田、菅生田、岩坂下、下台の一部
------------------	--------------	------------------------------------



羽後境駅周辺地区(秋田県大仙市) 整備方針概要図

地域交流拠点の形成による賑わいの創出と地理的特性を活かした住環境の形成による若者定住化の促進	代表的な指標	地域間交流人口 (人/年)	99,793 (15年度) → 124,000 (21年度)
		地区内居住人口 (人)	1,650 (16年度) → 1,680 (21年度)
		公園・地域交流センター満足度 (%)	10 (16年度) → 50 (21年度)



凡例

■ 基幹事業
□ 提案事業
○ 関連事業

- ※参考
- 市民センター「和ピア」・・・事業主体/大仙市
年間利用者数：39,063人
 - サン・スポーツランド協和・・・事業主体/大仙市
年間利用者数：34,364人
 - 「能楽殿」・・・事業主体/大仙市
年間入込客数：2,796人
・新能公演・・・来訪者数：520人/年
・定期能公演・・・来訪者数：620人/年
 - 物部長穂記念館・・・事業主体/大仙市
年間入込客数：2,730人
 - 唐松神社・・・来訪者数：19,700人/年
- 計 99,793人/年

区域設定の理由
国道13号と淀川に囲まれた、JRにより地区が東西に分断されている地区

